

# History of 200 years in Samani

## ふるさと様似・200年のあゆみ

年号	西暦	できごと
寛永12	1635	運別(今の海辺川→うんべがわ)の支流ポロナイの水源に金鉱を発見し、採金をはじめた(東金山金山→ひがしかなやまきんざん)
寛文9	1669	シャクシャインの乱で、東金山の鉱山閉鎖。川口に近いキリシタナイの集落がしだいにおとろえる
寛政11	1799	エンルムに会所を設ける 様似山道(約7km)と猿留山道完成
寛政12	1800	高田屋嘉兵衛の辰悦丸ほか様似に寄航
文化3	1806	オコタヌシ(栄町)に等澗院を完成。7日間勸請供養 等澗院初代住職 秀暁が百人浜に一石一字塔(いっせきいちじとう)を建立(碑文は秀暁の筆で現存)
文化8	1811	等澗院護摩堂、7月に竣工
文政4	1821	等澗院、ソビラウドルサンナイ(本町)に移転
明治8	1875	様似郵便局開局 様似神社が郷社となり、住吉神社として発足
明治18	1885	等澗院、廃寺となる
明治21	1888	公立様似簡易小学校開校
明治22	1889	様似簡易小学校の冬島、誓内(ちかない)文教場開校 石川県の移民 海辺(うんべ)に入る
明治24	1891	様似簡易小学校の鶴苔、岡二文教場開校
明治30	1897	等澗院再興許可、塚田純田が住職となる
明治38	1905	様似村役場庁舎 潮見台に新築
大正9	1920	様似尋常高等小学校鶴苔文教場開校
大正14	1925	はじめて電灯がつく(浦河から送電 278戸に点灯)
昭和8	1933	様似村是制定
昭和12	1937	日高本線、様似まで全線開通。様似、西様似、鶴苔各駅開設
昭和22	1947	様似中学校開校(鶴苔、冬島、幌満分校)
昭和24	1949	浦河高等学校様似分校設置
昭和27	1952	町制施行(村から町になる) アポイ岳高山植物群落 国の特別天然記念物に指定される
昭和37	1962	様似町史発刊
平成17	2005	等澗院古文書ほか蝦夷三官寺資料 国の重要文化財に指定される

### 様似郷土館

〒058-0024 様似郡様似町会所町1番地(0146) 36-3335

### 様似町教育委員会

〒058-0014 様似郡様似町大通1丁目21番地(0146) 36-2521

海からの視点

ふるさと200年

様似有情。



■パンフレット内のイラスト／ひらかわしょうじろう  
■表紙上図 「仙台藩東蝦夷地経営図の内シャマニ」市立函館図書館蔵  
■表紙下図 「北海道歴史検図」北海道大学附属図書館北方資料室蔵  
協力／(社)北海道海事広報協会



# 日本海の風に乗って。近世物流路がもたらした広域交流と北の繁栄。

海からの視点・ふるさと1100年

近世、特に江戸時代の後半は全国各地で地域の特産物が製造され、それが商品として各地に運ばれるようになりました。商品経済と物流の時代が本格化しました。物流はそれまでの陸路に加え、海路が求められるようになりました。大量な産物や商品を一度に運べる船と航路の時代がいっしょにやってきました。江戸・大阪間の「南航路」を先導として、やがて本州海岸線の北の太平洋岸をめぐる「東廻り海運」と、瀬戸内海から日本海へ出て沿岸を北上する「西廻り海運」が発達してきました。幕府は江戸と蝦夷地をむすぶ航路を開設し、日本海岸を伝う西廻り海運はやがて、当時の蝦夷地、北海道に達し日本社会の物流は豊かな北方の幸と出会いました。北海道の海産物や特産品が本州社会と結び、西廻り海運が飛躍的に伸展すると共に、松前や箱館を拠点とする海運は、北海道の主に太平洋岸にたく伸びました。道南松前地から、内浦湾、日高海岸、釧路、厚岸、それから千島列島まで、日本海につながる北前船流通が、北の各地の繁栄を築いていくことになりました。

小樽港にて 小樽市博物館 奥山コレクション

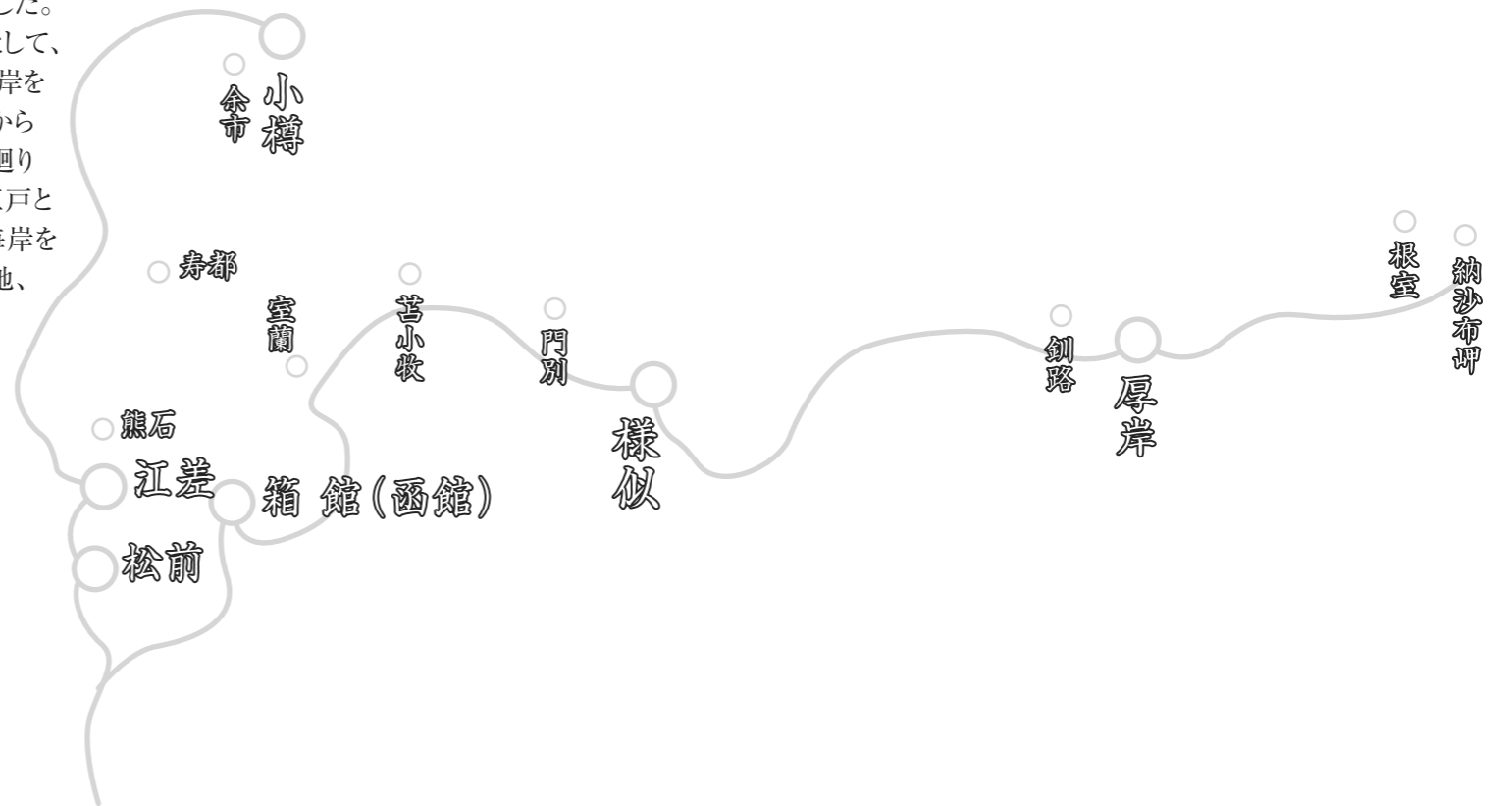


小樽港に集まった北前船 小樽市博物館蔵

## せんごくづ 沖の白帆は千石積みの北前船

大阪や瀬戸内では日本海のことを北前と表現しました。だから西廻り日本海航路の運送船は北前船。定義には細かいちがひもありますが、「北前船」とは北海道と大阪を日本海廻りで往復する航路で、さらに寄港する各地で積荷を売り、また仕入を繰り返す船と言えます。地方により、「ハイ船」「ベザイ船」「ベンザイ」とも呼ばれました。さて、北前船は18世紀中ごろから活躍するようになりました。それまでの各地の沿岸物流の船より、北前船は船体が堅牢で帆走能力にすぐれ、航路は基本的に大阪を出て瀬戸内海を南下、下関から日本海に出て、各地に寄港しつつ北上をつづけ、やがて蝦夷松前を北の拠点とするようになりました。時代が進むにつれ船の能力はさらに高まり、沿岸の寄港地は発展し、物の流れも大量加速していきました。北海道をめざす下り船はコメ、北海道からの上り船はニシンが代表的で、しかし北前船は各地が必要とするあらゆる物流や商品を買付け販売しながら往來を繰り返しました。いまの感覚からすると、船が「海路の総合商社」のようなものでした。この北前船群がやがて椗似のエンム岬をめざし、わたしたちの港へ出入りするようになっていきます。

近世、特に江戸時代の後半は全国各地で地域の特産物が製造され、それが商品として各地に運ばれるようになりました。商品経済と物流の時代が本格化しました。物流はそれまでの陸路に加え、海路が求められるようになりました。大量な産物や商品を一度に運べる船と航路の時代がいっしょにやってきました。江戸・大阪間の「南航路」を先導として、やがて本州海岸線の北の太平洋岸をめぐる「東廻り海運」と、瀬戸内海から日本海へ出て沿岸を北上する「西廻り海運」が発達してきました。幕府は江戸と蝦夷地をむすぶ航路を開設し、日本海岸を伝う西廻り海運はやがて、当時の蝦夷地、北海道に達し日本社会の物流は豊かな北方の幸と出会いました。北海道の海産物や特産品が本州社会と結び、西廻り海運が飛躍的に伸展すると共に、松前や箱館を拠点とする海運は、北海道の主に太平洋岸にたく伸びました。道南松前地から、内浦湾、日高海岸、釧路、厚岸、それから千島列島まで、日本海につながる北前船流通が、北の各地の繁栄を築いていくことになりました。



小樽市博物館 林コレクション

Kitamaebune.

## たかだやかへえ 人物列伝 1 「北方歴史の創造者」巨人・高田屋嘉兵衛

Kahei Takadaya.

後世の人びとは海の大商人高田屋嘉兵衛のことをさまざまに想い描きます。若いころからは「豪胆なる航海者」、北前船で商売を拡大していくころは「組織づくりの名将」、また後半世の国際的活躍には「人間魅力の利器」などと評価されていますが、幕末期蝦夷地、北海道の過去を視点とすれば、嘉兵衛の活躍はまさに北方の歴史そのものを創造した人物、と見るすることができます。それほど大きい嘉兵衛は、淡路島(兵庫県)に生まれ、兵庫に出て水主(船乗り)になります。2年後には早くも船頭。その3年後には北前船の船主になり、持ち船、辰悦丸を完成させ、嘉兵衛28歳、兄弟6人を中心とした高田屋を旗揚げ、蝦夷地の松前、箱館(現函館)へ渡航し、30歳で箱館支店を置きます。日本海をめぐる海の航路期時代。蝦夷地の産物は本州社会に迎えられ、買付けと販売の動く商社北前船は莫大な利益を上げ、高田屋は支店網を充実させ、所有の船を増やし、たちまちのうちに大発展。拠点とし

「北海道歴史図」北海道大学附属図書館北方資料室蔵

た箱館の市街地開発も手がけます。こうした高田屋と航海名人の嘉兵衛、箱館で幕府の役人たちと交流し、幕府が東蝦夷地を松前藩から召し上げて直轄地とした1799(寛政11)年、幕臣近藤重蔵の依頼でクナシリ島からエトロフ島への航路を開拓します。このとき、嘉兵衛と重蔵が待ち合わせたのが私達の椗似。一説には商人嘉兵衛を港に迎えた重蔵は正装であったと伝えられています。その後、南下するロシアと幕府直轄地の東蝦夷地(太平洋岸一体)の間で、国際的な緊張が高まり、1811(文化8)年、ロシア軍艦ディアナ号がクナシリに来航した際、幕府は艦長ゴローニンら8名を捕らえ、ロシアはその報復に嘉兵衛ら5名の船をカムチャッカに連行します。のち、嘉兵衛の人間性が称賛されるロシアとの交渉、やがて交流のきっかけとなります。一代の海の英傑、嘉兵衛59歳で永眠。かれの像は海の見おろせる函館の一隅にいまも建ちつづけています。

# 日高沿岸ニ良港アリ。「神々の国」ダ様似。 ここにふるさと物産と人びとの集結。

## S a m a n i U j o u

海からの視点、ふるさとをよびとる。二〇〇年



「東蝦夷夜話 中」より 北海道大学附属図書館北方資料室蔵

に会所が設けられ、様似山道が完成し、多くの人々が往来し、日高方面の物流が港から全国へ向かいました。海のドラマ、大商人高田屋嘉兵衛の活躍を中心にした司馬遼太郎の小説「菜の花の沖」は、海上から近づいた船乗りたちの心情に託して、美しくも理想的な様似港のありさまを「神々の国」と想ったはず。と描いています。

いぶん早くから人びとの生活圏でした。様似町では1635(寛永12)年に運別(西様似)の東金山で金採掘が行われ、その沿岸に繁華な部落が形成されていたと記録されています。こうして、安住やがて小社会となった様似は、地の利を得た良港として海の物流時代と出会います。東蝦夷地の勃興。1799(寛政11)年、エンルム

「蝦夷全地」北海道大 学附属図書館北方資料室蔵

「東蝦夷図巻 乾」北海道大学附属図書館北方資料室蔵

様似町の町章はエンルム岬を中心にして東に大港、西に小港を抱く姿をかたどっています。岬の存在が風をやわらげ、出船、入船を見守る地形。帆船が海を駆けていた江戸時代などはまさに日高沿岸の良港であったわけです。北海道の内陸やオホーツク沿岸などに比べ、太平洋岸、東蝦夷地と呼ばれていた地方はず

## 地域社会の中心 会所のある風景

明治以前の北海道。江戸幕藩体制時代の北海道はコメの収穫が無く、松前藩は全国唯一の「無石の藩」でした。コメの代わりに海産物や特産品。松前藩は独特な「場所請負」という制度の元、道内の主要地は、その他の運営を特定な商人にまかせました。その地域には運営をおこなう施設があり「運上屋」と呼ばれました。「運上屋」は地域物産の集荷や販売を中心にやがて多様な役割を果たすようになっていきました。幕末の激動期、江戸幕府は松前藩に替わって東蝦夷地を支配し、「直掬」と言われる直接経営をめざすようになり、それまでの場所請負人の出張り、「運上屋」を「会所」と言うようになりました。会所は場所請負人が派遣した人びとが支配人以下の組織をつくって運営されました。この会所組織は場所請負人経済の支店や出張所といった面だけでなく、地域の中心施設として存在し、人びとの往来など交流や文化活動の中心であったりしていたようです。会所の置かれている様似の社会、その充実ぶりがやがて蝦夷三官寺等湖院の創建にも関わってきます。

### Kaisyo.

### 人物列伝 2

なかむらこいちろう

### 「様似山道」開削 行動派・中村小市郎

太平洋岸日高地方の拠点、シャマニ会所(様似)が幕府によって設定されるとその初代詰合(責任者)に中村小市郎が赴任しました。かれはその以前の1785(天明5)年、幕府の蝦夷地調査隊に従って国後島まで往復、翌6年にはウルクッ島へ、と様似を通過しています。その知った様似へ赴任。小市郎はただちに様似山道の開削工事を企画し、現場責任者となっています。会所の詰合は2年間この地を訪れる多くの人びと、たとえば測量の伊能忠敬一行などを迎えて親交を深めました。詰合の任期を終えると、小市郎は1801(享和元)年、ふたたび幕府からカラフト検分の命を受け、カラフト東ナイブツまでを検分。行動的な人生を貫きました。小市郎、下関国(群馬県)益子村の出身。1810(文化7)年、享年56歳で病死し現在は東京都牛込の松源寺に永眠しています。

Nakamura Koichirou.

### 人物列伝 3

さいとうわすけ

### 「最初の移住者」地蔵となった斉藤和助

「この良港の地をもっと人間的なふるさとにしたい」とがらんぼった。もし和助に聞けば、かれは自分の人生をそう答えたはずです。和助は、中村小市郎が責任者となって始めた様似山道開削工事たけなわのころ、南部(現東北地方)からやってきました。そして誠心誠意、山道開削を手伝ったり旅人の利便を図ったりしました。地域の雑事にも協力、その人柄や献身的な姿はやがて地域の人々から絶大な信頼を寄せられました。人間社会ふるさと様似。この先人は91歳で天寿を全うしましたがかれの人徳はなおも語られ、その遺徳をたたえるため、様似場所請負人・福島屋善四郎らが和助本人を「和助地蔵」として建立しました。人びとの感謝が地蔵になった。そうした人物を北海道では他に知りません。現在も幌満地区住民によって毎年例祭が開かれています。

Saitou Wasuke.

